

# 「令和4年8月3日からの大雨」による水稲、大豆の冠水被害調査

山形県農業総合研究センター土地利用型作物部

## 研究のねらい

令和4年8月3日からの大雨によって発生した冠水<sup>※</sup>が、水稲及び大豆の収量と品質に及ぼした影響を調査し、今後の指導等の参考とする。

※冠水：作物全体が水没した状態になること。

## 研究の成果

- ① 冠水被害は、置賜地域及び最上川流域を中心に各地で発生した（図1、図3）。
- ② 冠水した水田では、籾の退化や不稔籾が増加し、収量が低下した。冠水時間が長くなるほど被害程度は大きく、収量が大きく低下した（図2）。
- ③ 大豆では、冠水時間が長くなるほど主茎長は短く、主茎節数・分枝数が少なくなり、稔実した莢数が減少し、収量が減少した。冠水時間が48時間と長くなった圃場では、莢が皆無の圃場も見られた（図4）。



図1 水稲の冠水状況

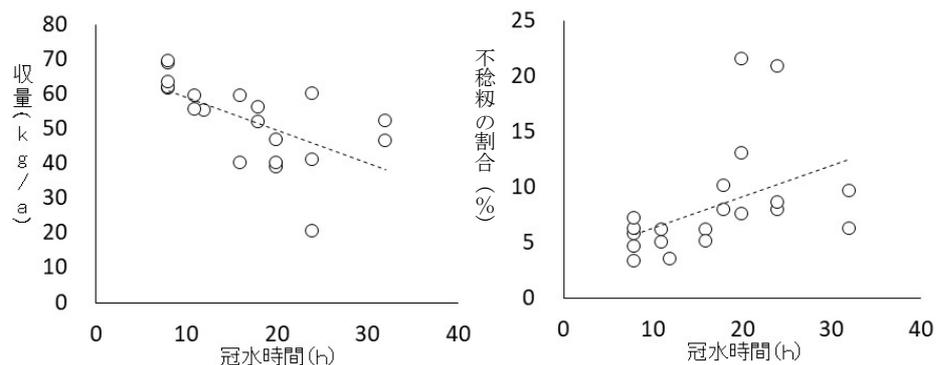


図2 冠水時間と収量、不稔籾割合の関係（水稲）



図3 冠水5日後の大豆圃場  
(葉や茎に泥が付着)  
(冠水36時間の圃場)



冠水時間 (h)	0	36	44~48	48
減収率 (%)	0	60	70	100

図4 冠水時間と大豆の形態及び減収率